令和３年７月１日からの大雨に係る災害派遣

頭号師団

発行元
第1師団司令部
総務課広報班

第１師団
ホームページ
QRコード

師団３００人態勢　人命救助活動

師団は、静岡県熱海市における記録的な大雨の影響による土石流発生に伴い、令和３年７月１日からの大雨に係る災害派遣を実施した。７月３日、静岡県知事からの災害派遣要請を受け、第34普通科連隊長は同時刻に受理し、34普連を基幹として第１戦車大隊、第１施設大隊とともに人命救助活動を実施するほか、第１後方支援連隊、第１通信大隊、第１飛行隊、第１師団司令部付隊はそれぞれの機能をもって活動を行った。また第32普通科連隊が８日、１戦大と部隊交代を行い、人命救助活動を引き継いだ。

岸防衛大臣に現地の状況を報告する３４普連隊長

現地の状況を確認する師団長と１戦大隊長

第34普通科連隊

▼第34普通科連隊は、７月３日、大雨の影響により発生した静岡県熱海市での土砂災害に伴い、県からの要請を受け災害派遣活動を開始した。

県内では７月１日から大雨が続き、３日午前10時半頃に熱海市伊豆山地区の逢初（あいぞめ）川で大規模な土石流が発生し、多くの住宅が流され多数の安否不明者がいることが確認された。

連隊は、同日午後12時半に静岡県知事からの災害派遣要請により人員を現地に派遣した。

到着後、被災地域の情報収集及び偵察と併せて消防署員等と連携して周辺住民の安否確認、避難誘導、人命救助活動を実施した。

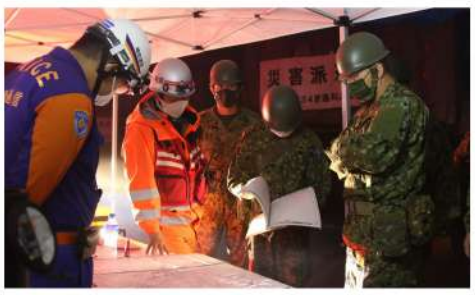
31日、大規模捜索の必要性がなくなり、県知事からの要請により午後０時をもって活動を終了した。

終了後は、現地において犠牲者のご冥福を祈り、黙祷を行った。

最後に宿営地において熱海市長から「炎天下の中、活動する皆様の献身的な姿に心を打たれました。市民や被災された方々が自衛隊員の活動する姿にどれだけ勇気づけられたことか、市民を代表して心からお礼を申し上げます」と言葉を頂き、見送りを受けながら連隊は熱海市を後にした。

人命救助活動する３４普連

活動状況をスマテレで撮影する３４普連



関係機関と会議中の１戦大隊長

行方不明者を捜索する１戦大

人命救助活動する３２普連

隊員の健康状態を確認する医務官と心理幹部

第１戦車大隊

▼第１戦車大隊は、７月３日、熱海市姫の沢公園に指揮所を開設して伊豆山地区に部隊を展開、人命救助活動を実施した。

時折雨が激しく降り、途中２次災害防止のため捜索が中断される状況下であったが、隊員はぬかるみに腰まで浸かりながらもエンピ等による手作業での救助活動を懸命に行った。

また、民間のダンプ車と連携し、小型ドーザーによる道路啓開を実施し、救助活動部隊の前進に協力した。

派遣部隊は、戦車大隊後方指揮所勤務者や駐屯地業務隊の支援に支えられ、災害派遣任務を完遂した。

定点監視する師団司令部第２部

第32普通科連隊

▼第32普通科連隊は、第１戦車大隊との部隊交代に伴い、７月９日、熱海市民グランドに指揮所を開設し、第34普通科連隊へ配属の下、伊豆山地区に部隊を展開し人命救助活動を実施した。

31日、静岡県知事からの要請により活動を終了した。

熱海消防署長と黙祷する３４普連

関連＝②面

師団長要望事項
楽しく全力を出そう！
喜んで全力を出させよう！

令和3年7月1日からの大雨に係る災害派遣

洗濯支援活動する１後支連

補給支援活動する１後支連

ダンプで土砂を運ぶ１施大

バケッドローダーで土砂を撤去する１施大

瓦礫を撤去する１施大

衛星アンテナを設置する１通大

野外支援車を展開する隊員

通信状況を確認する１通大

経路を確認する車両小隊

第1後方支援連隊

▼第1後方支援連隊は、7月3日から各部隊指揮所地域において、兵站支援活動（整備実績49件、部品補給実績69品目、給油支援実績2万216OL、糧食支援実績4.2t、氷1.95t、洗濯実績（下着44件及び戦闘服17着）、輸送実績9件）を行った。派遣部隊の円滑な人命救助活動ができるよう昼夜問わず支援を実施し、無事任務を完遂した。

第1施設大隊

▼第1施設大隊は、7月3日、熱海市長浜海浜公園に指揮所を開設し、機械力を主体とした人命救助活動を実施した。

当初、警察と連携して人命救助活動を行いながら、運土作業を実施し、施設器材進出経路を確保した。

じ後、2次災害を警戒しつつ、機械力を最大限に発揮して人命救助にあたり任務を完遂した。

第1通信大隊

▼第1通信大隊は、発災後、各部隊展開地域において、システム通信組織の構成・維持・運営を行った。

大隊は災害発生後、迅速に現地へ隊員を派遣し、各部隊の現地指揮所の近傍に展開し、災害派遣活動に必要なシステム通信を構成し、円滑な派遣活動に貢献し、任務を完遂した。

第1師団司令部付隊

▼第1師団司令部付隊は、7月3日、第1種（乙）非常勤務態勢に移行して、指揮所活動により情報の収集を開始した。各種の調整を行うとともに、司令部の連絡幹部の輸送等を行った。

また、野外支援車（トイレ）を現地で運用して、派遣部隊が円滑に活動できるよう、拠点地域において支援活動を行った。

第１師団

不発弾等処理技能者（練成）集合訓練

処理能力を維持・向上

師団は、９月２日から17日までの間、東富士演習場において令和３年度不発弾等処理技能者（練成）集合訓練を実施した。

本訓練は「不発弾等処理能力の維持・向上」を目的として実施され、第４部長を担任官とし、東部方面後方支援隊第１０２不発弾処理隊から２名の助教支援の下、師団隷下部隊に加え、第１施設団及び東部方面混成団の隊員計22名が導火線及び電気点火法による爆破処分要領を演練した。

当初、隊員は５つの組に分かれ、組長、点火手及び爆破手の役職を交代しながら基本爆破を実施。引き続き、不発弾を模擬した弾薬を使用して、爆破処理の要領を演練した。

訓練に参加した第１高射特科大隊の藤田２曹は「不発弾処理は危険を伴うので、一つ一つの動作を確実に確認しながら、常に緊張感をもって訓練に臨みました。部隊で不発弾処理に臨む際には、自信をもって行動できます」と話した。

導火線と雷管を繋げる隊員

第２次師団システム訓練

隷下部隊及び指揮の特例部隊が参加

師団は、９月７日から９日までの間、第２次師団システム訓練を実施した。

本訓練は、第３部長を担任官として、Ｓｋｙｐｅを使用して実施され、師団隷下部隊及び指揮の特例部隊の隊員は、各駐屯地においてシステムによる情報共有、入力統制等について訓練するとともに、最新の情報保証に関する規則等の教育を受けた。

教官として訓練に臨んだ、第３部の金剌２曹は、「情報共有の重要性を理解してもらうことを重視しました。今後も、師団の適切な情報保証に努めます」と話した。

また、訓練に参加した第１偵察隊の黒須２曹は、「陸自クローズ系クラウドシステムを使用した作図要領等、システムを使用した情報のやり取りについて理解できました。今後は、基礎的な事項に加え、不測事態におけるシステム復旧要領等についても演練したい」と今後の意気込みを語った。

教育中の第３部システム班長

訓練中の１偵隊員

第３回師団情報処理訓練

クラウドシステム等の操作要領を練成

師団は、９月３日から16日までの間、ＶＴＣを用いて第３回師団情報処理システム訓練を実施した。

本訓練は、第２部長を担任官として行われ、各部隊の情報処理担当者は、災害対処及びゲリラ・コマンドウ対処の場面におけるシステムを使用した情報処理要領及び関係部隊等との情報共有について演練し、その練度の維持・向上に努めた。

訓練を担当した第２部の三井３曹は、「今回、指導する立場として、相手が理解しているかどうかを確認して訓練を進めることに着意しましたが、人に教えることの難しさを実感しました」と感想を述べた。

また、訓練に参加した第１普通科連隊の内村３曹は、「陸自クローズ系クラウドシステムで情報を共有するための、位置情報の入力要領や情報処理の要領について理解できました。今回の成果を日々の任務に役立てられるよう、更なる練度の向上に努めます」と話した。

教育中の第２部運用調整陸曹

訓練に参加した１普連隊員

防衛大学校３学年が部隊実習

第１普通科連隊

第１普通科連隊は、７月４日から21日までの間、幹部自衛官の地位・役割を理解させるとともに、部隊の実情を体験させる防大３学年の部隊実習を担任した。

実習では、小部隊の行動を理解させることを主体に、野営を含む各種訓練（徒歩行進、機関銃射撃、地図判読、分隊攻撃、野戦築城、各種火器の射撃研修等）を行った。

学生たちは陸上要員として必要な知識・技能の向上を図るとともに、部隊の実情を理解して実習を終了した。

リペリング降下する防大生

攻撃命令を受領する防大生

師団携帯ＳＡＭ集合訓練を実施

第１特科隊

第１特科隊は、７月12日から16日の間、東富士演習場、駒門駐屯地及び高射学校において第１回師団携帯ＳＡＭ集合訓練を担任した。

本集合訓練は91式携帯地対空誘導弾（携帯ＳＡＭ）を装備する部隊の特技保有者に対して射撃準備及び対空戦闘能力の練度向上を図る目的で実施され、各隊員は対空戦闘概要、経空脅威、射撃理論等を学ぶとともに、射撃準備における一連の動作を演練した。

また、模擬実射訓練において、各隊員は対空戦闘シミュレータを使用した一連の動作を反復演練するとともに、訓練終了後に研究会に参加して集合訓練を終了した。

対空情報受信装置の操作訓練する隊員

操作訓練する隊員

電子偵察小隊レーダ訓練

第1偵察隊

第1偵察隊は、7月13日から15日までの間、東富士演習場及び長尾峠（御殿場市）においてレーダー訓練を実施した。

本訓練は電子偵察小隊長（富岡1尉）以下13名をもって、地上監視における車両及び車列の探知・識別の練度を向上させる目的で実施された。本訓練により熟練隊員の練度の維持及び若年隊員の技術の向上を図ることができた。

長尾峠山頂に展開する地上レーダー装置

警戒監視中の隊員

第5回飛行隊訓練を実施

第1飛行隊

第1飛行隊は、8月25日から27日までの間、北富士演習場及び立川駐屯地において第5回飛行隊訓練を実施した。

本訓練は師団の防御を想定して実施され、隊は、展開地推進、警戒・自衛戦闘訓練、夜間飛行等各種戦闘訓練を行い、その練度向上に努め、所望の成果を収めることができた。

発着地における燃料再補給

ＮＶＧを使用した戦技飛行訓練

ＵＨ－１の操縦桿を整備する隊員

3個部隊による協同訓練

第1特殊武器防護隊

第1特殊武器防護隊は、6月23日及び24日、練馬駐屯地において化学事案発生時の対処訓練を実施した。

本訓練は第1普通科連隊及び第1後方支援連隊衛生隊と協同で実施し、汚染状況の偵察から患者搬送までの部隊間の連携要領を演練し、1普連及び1後支連との認識の統一を図ることができた。

負傷者の除染を行う隊員

施設内の汚染状況を偵察する隊員

静内射撃場にて対空実射（短ＳＡＭ）

第1高射特科大隊

第1高射特科大隊は、7月28日から8月22日までの間、静内駐屯地、帯広駐屯地及び静内対空射撃場において、高射学校等の支援の下、81式短距離地対空誘導弾（短ＳＡＭ）の実射訓練を実施した。

1高大は7月28日、駒門駐屯地を出発し、29日に静内対空射撃場へ集結を完了。7月30日から8月5日までの間、高射中隊の模擬実射訓練を実施した。

引き続き、6日から11日の間、高射学校が編成する射撃支援隊による模擬実射訓練、射撃準備、実射訓練の評価を受けた。

実射訓練においては、短ＳＡＭの器材を展開し、射撃準備を完了した後、高射中隊の短ＳＡＭ発射手が上空を飛行中の標的機を早期に発見、捕捉追随して、発射班からの命令により迅速に射撃操作を実施し、要撃を成功させた。

模擬実射訓練する隊員

射撃準備をする隊員

轟音を立てて飛び立つ短ＳＡＭ

第32普通科連隊レンジャー帰還式に伴う音楽演奏

第1音楽隊

第1音楽隊は、7月5日、大宮駐屯地で実施された第32普通科連隊レンジャー帰還式において、音楽演奏を実施した。

隊は隊長以下25名で栄光の架橋等、4曲を演奏し帰還式を盛り上げた。

本演奏により隊員の士気高揚及び隊員家族の自衛隊に対する信頼感の醸成に資するとともに、円滑な行事の実施に寄与した。

レンジャー帰還式において演奏支援を実施

演奏を実施する１音

師団ナンバーワン戦士！６人認定

師団ナンバーワン戦士に認定した（写真右から）
34普連 小出３曹、１音 小川准尉、32普連 藤澤２曹、
１普連 青柳２曹、１普連 向後３曹、１後支連 大野２曹

師団は7月20日、司令部庁舎において令和２年度師団ナンバーワン戦士を認定した。

今回で５回目となる「師団ナンバーワン戦士」は、師団の隊員の更なる戦技能力の向上と士気の高揚を図る目的で認定している。小銃射撃検定（基本射撃の部・応用射撃の部）、拳銃射撃検定、５．５６㎜機関銃ＭＩＮＩＭＩ検定、体力検定（男女の部）において、最も優秀な成績を収めた隊員に対して師団長より認定証を授与するとともに、司令部庁舎１階エントランスの顕彰板へ掲示を実施した。

新たにレンジャー隊員誕生 19人が帰還報告

連隊長（写真左）からレンジャーき章を授与される隊員

隊員家族が見守る中、帰還報告する隊員

第32普通科連隊は7月5日、大宮駐屯地体育館において第39期部隊集合教育「レンジャー」の帰還式を実施した。

各部隊、隊員家族等に見守られる中、無事最終訓練を終えた19人（32普連15人、中央即応連隊3人、第1施設大隊1人）が帰還した。帰還報告終了後、連隊長によりレンジャーき章が授与された。

令和３年度師団情報・保全強調期間
情報・保全標語優秀作品２名を表彰

左から表彰された
１特防 光畑３曹と１通大 橋場３尉

師団は9月3日司令部庁舎において、令和3年度情報・保全強調期間における情報・保全標語の優秀作品表彰を実施した。

情報保全標語の優秀作品として、師団隷下部隊から選考された作品（14作品）の中から、優秀な上位2作品を決定し、師団長より表彰状を授与した。

優秀作品に選定された標語は部隊で掲示し、隊員の保全意識向上に活用される。

表彰された第1通信大隊橋場3尉は「保全責任者として、隊員の意識を高揚させるにはどうしたら良いかを考え、特に若年隊員が多く利用するSNSの言葉にSOSをかけて作りました。保全事故絶無のため、努めていきます」と話した。

また、第1特殊武器防護隊光畑3曹は「好きなアニメからヒントを得ました。人気のアニメなので、隊員に覚えてもらえると思い標語を考えました。保全意識が高まるとうれしいです」と話した。

東京消防庁より感謝状
救護活動に寄与

消防署長（左）から感謝状を受取る
１普連３中 石田３曹（右）

第1普通科連隊第3中隊の石田3曹は、7月12日、東武練馬駅において、AED等を使用した心肺蘇生を行った人命救助による功績により、東京消防庁志村消防署長から感謝状を受賞した。

CSMコーナー

第１音楽隊

先任上級曹長
陸曹長
古幡 伊知朗

都内で演奏する第1音楽隊

先任上級曹長、古幡曹長

第1音楽隊先任上級曹長の古幡曹長です。陸上自衛隊音楽隊の中で、唯一、首都・東京に所在する近衛師団にある第1音楽隊。私たちの任務は「隊員の士気高揚のための演奏」、「儀式のための演奏」、「広報のための演奏」、「必要に応じ指揮所の警備」の4つです。

「隊員の士気高揚のための演奏」

音楽隊は何故存在するのか？その起源をたどると、古代ローマの時代から存在し、特に有名なトルコ軍楽隊「メフテルハーネ」はオスマン帝国時代（1299～1922年）からの歴史を持つ最古の軍楽隊であると言われています。当時、太鼓や鳴り物中心に編成され、その大音量は敵を圧倒し戦意を喪失させるとともに味方の士気を高揚させた、と伝えられています。時代とともに色々な楽器が加えられ現在の形となりました。現在、音楽隊は、その演奏により隊員の士気高揚と任務遂行後の戦力回復の一端を担っています。過去には、2年間を費やして師団隷下部隊すべてと協同訓練を行い、お互いの理解と団結強化・士気高揚に努め、合わせて各部隊の家族支援行事の演奏協力も行なっています。

「儀式のための演奏」

自衛隊の儀式には、儀じよう、観閲式、葬送式等があり、栄誉礼等、音楽隊で演奏することが定められています。

「広報のための演奏」

自衛隊の活動をより多くの国民に知っていただく広報の一環ですが、東日本大震災、令和元年台風19号等、災害派遣時にも多くの被災地を回り演奏を届けました。師団広報や各地方協力本部と連携して国民と自衛隊を繋ぐ架け橋となっています。ある被災地を訪れた際に被災者から「私たちは被害にあってから、避難場所で日々どうしようか、この先どうなってしまうだろうか、と終わりのない悩み、苦しみで頭を抱えていましたが、皆さんの演奏を聴いて吹っ切れ、未来への一歩を踏み出すきっかけをいただけました。ありがとう！」と被災者からの言葉を貰いました。音楽隊員冥利に尽きるとは正にこの事です。

「必要に応じ指揮所の警備」

有事の際、音楽隊は師団指揮所を護る任務があります。師団の政経中枢、頭脳である師団司令部を警備することは極めて重要です。多忙な演奏任務と同時に訓練を重ねています。

今、新型コロナウイルス感染症により演奏の機会は激減しており、聴衆の前での演奏が出来ない状況は深刻です。隊員個人は演奏技術の維持向上のための努力を続けていますが、演奏は聴衆が居て初めて成り立つものであり、演奏の場が無い音楽隊員にとって、そのモチベーションを保つことはとても難しいことです。しかし「コロナ禍だからこそ出来ることをきちんとこなす」と言う目標を掲げ、日々訓練を怠らず、何時でも演奏できる態勢を整えています。

私は先任上級曹長として「国防」と言う崇高な使命を自覚し、演奏を通じて、その任務を達成する音楽職種に誇りを持ち、一致団結、隊員とともに第1師団に貢献できる音楽隊を練成していく所存であります。今後とも第1音楽隊をよろしくお願いいたします。

退官者紹介

第１普通科連隊

本部管理中隊

准陸尉　岩切　修治

陸曹長　鎌田　克人

第１中隊

准陸尉　神田　隆雄

陸曹長　福澤　雄馬

第３中隊

准陸尉　小河　香一

第４中隊

陸曹長　山口　益男

第５中隊

准陸尉　加藤　浩

重迫撃砲中隊

准陸尉　山内　学

第32普通科連隊

第１中隊

准陸尉　竹田　博文

第４中隊

陸曹長　後藤　充

陸曹長　谷川　昭彦

第34普通科連隊

本部管理中隊

陸曹長　澤田　晶一

第４中隊

准陸尉　原田　宗義

第５中隊

准陸尉　中村　仁

第１特科隊

第１中隊

准陸尉　高坂　英樹

第１後方支援連隊

第１整備大隊　施設整備隊

准陸尉　塚田　安夫

第２整備大隊　第３直接支援中隊

准陸尉　山本　明

衛生隊本部

３等陸佐　田中　竜祐

第１戦車大隊

本部管理中隊

准陸尉　鈴木　孝幸

第２中隊

准陸尉　末吉　九州雄

第１通信大隊

本部管理中隊

１等陸曹　服部　新一

第１飛行隊

通信班

陸曹長　佐藤　雄二

隊員家族紹介

父への憧れ

第１後方支援連隊衛生隊　上田士長

私は自衛官である父に憧れて自衛隊に入隊し、３年半が経過しました。職種の違いはありますが、現在は同じ第１後方支援連隊で勤務しています。

小さい頃から自衛官としての父を見てきましたが、同じ部隊に所属している今、勤務している姿を間近で見ることで憧れや尊厳の気持ちが大きくなりました。休日に家に帰ると職場での悩みなどを先輩として、父として聞いてくれます。野営などがある時は、「一緒に頑張ろう」と言ってくれます。そんな父の存在は私にとってとても心強いです。

今年父は体調を崩してしまい、仕事が制限され、一緒に訓練をすることは出来ない状態ですが、そんな中でも仕事を頑張っている父を誇りに思います。私も父のような陸曹になり、家族を支えていけるようになりたいと思います。

憧れの父と私
（輸送隊 上田１曹）

新着任部隊長紹介

第１高射特科大隊長

２等陸佐　矢部　国会

ダンスと共に歩む

第１通信大隊本部管理中隊　横田３曹

コンビニやスーパー等、音楽の流れる場所であれば、勝手に体が動いて踊りだす。ダンスを習う前から、そんな女の子でした。

大好きな歌手のＭＶを見ながら歌って踊る長女は、小学校低学年の時からダンスを習い始め、年上のチームメイトと共に汗を流し、ダンスの練習に励んでいます。同じ頃の自分を思い返すと、これ程までに真剣に取り組んでいたことはなかったように思います。小さいころから一生懸命にノートをとり、練習から帰っては、ダンスの復習をしています。たくさんの観客の中、堂々と踊る事が出来るのも、真剣にダンスと向き合っているからでしょう。

そんな頑張り屋の娘ですが、まだ小学校中学年のため、寄り道、脱線、色々あると思います。そんな時、父親として温かく見守りつつ、支えていければと思っています。

ダンスの練習をする長女

自衛官の妻として

第１後方支援連隊本部付隊　齋藤３曹　妻

愛娘と愛する夫

退院後の家事などを担当してもらい、安心して元気な女の子を出産することができました。

６月は梅雨の時期という特性上、大雨や洪水等で災害派遣の可能性もあったので不安もありましたが、夫と長女と協力して新たな家族を迎えられた事が何よりの喜びです。

自衛官という職業は体力的にも、精神的にも非常に負担が多いと感じますので、夫が訓練や災害派遣等で疲れて帰ってきた時には娘達と暖かく迎え、心身共に休まる環境を作っていきたいと思います。

６月の第２子出産にあたり、夫が特別休暇や年次休暇を利用して、２週間程休みを取得してくれました。そのお陰で、心配していた私の入院間の長女の世話や

自衛官の妻として

第１通信大隊大隊本部班　吉原３曹　妻

昨年11月、コロナ禍の中、結婚しました。夫は訓練や災害派遣などで家を留守にすることも多く、少し寂しい気持ちもありますが、頑張っている姿を一番近くで応援できてとても幸せです。

私は熊本出身で、５年前の熊本地震を経験しています。その際、地元の多くの方々が自衛隊の皆さんに助けて頂いたことはまだ記憶に新しく、本当に感謝してもしきれない出来事です。当時、夫も熊本に派遣され被災地のために奮闘していたと聞いたときには胸が熱くなりました。夫が被災地に赴く際には危険なことはないか心配になったりもしますが、被害の余波に対する恐怖やままならない避難生活への不安と緊張で疲弊している被災者の方々に寄り添い、支援する夫を尊敬していますし、誇らしく思います。

昨今の終わりの見えないコロナ禍で様々なことが変化を求められ、穏やかでない日々が続きますが、自衛官として働く夫を支え、安心して帰って来れる家庭を築いていきたいと思っています。

フォトウエディング撮影にて

隊員自主募集ご協力のお願い

一般曹候補生・自衛官候補生の応募資格が改正！

18歳以上**33未満**の男女

自分たちの「同僚・後輩は自らの手で」

悩み相談	０１２０－１８４８－３８
心理相談（第１師団心理幹部）	８－３１－２２１５
法律相談（第１師団法務官）	８－３１－２２６６
倫理相談（第１師団法務官）	８－３１－２２６５
「うつ」隊員等のサポート	０１２０－８３４－９３９

【お知らせ】
開館時間は平日の9時から15時までです。
お申し込みは1週間前までにご連絡下さい。